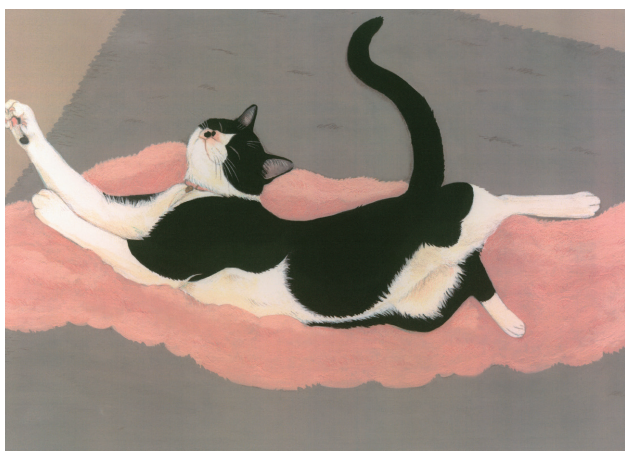
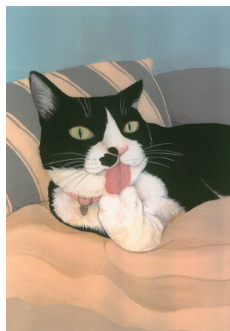


うちのこまほうつかいの

こうや みはる
幸谷 美治



STORY

飼い主が飼猫の三毛猫を「まほうつかい」だと紹介した絵本。そこにいるなって思っていたら、いつのまにか遠くにいたり、近くにいたりする。空と話をし、雲や風と友だちで、水もないのに顔を洗う。やわらかい手と、つめ、ふわふわのおなかと、ぐんにやりと長くのびる体があって、人がなでると、のどや鼻をならして、見ているだけでうれしい気持ちにさせてくれると語ります。



こうや みはる
幸谷 美治

主婦 福岡県

受賞のことば

この度は優秀賞に選んでいただきありがとうございます。突然の嬉しいお知らせに、言葉にならない驚きと感謝の気持ちが頭の中をグルグル駆けめぐり爆発しそうになりました！絵本づくりに出会って二十数年、今だに描いては迷って…を繰り返していますが、いただいた賞を励みにこれからも楽しい嬉しい気持ちを大切に絵本をつくっていきたいです。

審査員コメント

「うちのこ すごいの だってね……」と繰り返されるなかで、猫のさまざまな神秘が語られます。構図のバリエーションがずいぶん豊かで、色づかいのきれいな絵本になりました。

宮川 健郎